

オール島根内科専門医研修プログラム 施設情報一覧

2019年5月21日現在

	島根大学医学部附属病院	独立行政法人国立病院機構 松江医療センター	松江市立病院	松江生協病院	松江赤十字病院	松江記念病院	東部島根医療福祉センター	医療法人社団 日立記念病院	雲南市立病院
担当者連絡先	内科学第四内科 教授 田邊 一明 0853-20-2249 (資料室) 各診療科へ問い合わせは下記HPよりご確認ください。 (島根大学医学部 ⇒ 卒後臨床研修センター ⇒ 専門研修 ⇒ 内科)	研修担当 門島 徹 (呼吸器内科医長・教育研修部長) 事務担当・照会窓口 管理課庶務係長 田邊 利明 0852-21-6131 (管理課)	循環器内科 部長 太田 哲郎 TEL:0852-60-8000 (代表)	秘書課 白石 美栄 TEL:0852-23-1111 FAX:0852-26-4104 E-mail:m.hakuishi@matsue-seikyo.jp	教育研修推進室 臨床研修担当事務 TEL:0852-61-9920 (直通) E-mail:kyouiku@matsue.jrc.or.jp	健康支援センター長 古家 寛司 松江市上乃木三丁目4番地1号 TEL:0852-27-8111	医事課 吉井 TEL:0852-36-8011	事務部長 福井 健二 島根県安来市安来町1278-5 TEL 0854-22-2180 FAX 0854-22-2183 E-mail kenji-fukui@hitachi-kinen.jp	総務課 勝部 琢治 〒699-1221 雲南市大東町飯田96-1 TEL:0854-47-7532 FAX:0854-47-7501 Mail:hospital-soumu@city.unnan.shimane.jp
指導責任者より内科専攻医へのメッセージ	当院は、特定機能病院として高度急性期医療、がん医療の推進、再生医療センターの設置により再生医療の充実を図っています。急性期医療の要となる救急医療につきましては、ER型救急医療を実施していますが、2015年全国に先駆けてAcute Care Surgery講座を設置し、2016年4月から高度外傷センターが稼動を開始し、外傷救急医療も拡充しています。 内科診療科においても高度医療の提供、地域医療の最後の砦機能の維持・推進、救急医療の充実、災害医療への対応、優れた医療人の養成を通じて島根県の地域医療に継続的に貢献することを目標としています。内科専門医としての基本的臨床能力獲得後はさらに高度な総合内科のGeneralityを獲得する場合や内科領域Subspecialty専門医への道を歩む場合を想定して、複数のコース別に研修を行います、内科専門医を育成します。	「呼吸器病センター」として地域の基幹病院の役割を果たしております。 呼吸器内科では幅広い領域の呼吸器疾患を対象に診療しており、特に呼吸不全、結核・抗酸菌症の治療を得意としております。また呼吸器外科は山陰地方では手術件数が最も多い施設の一つであり、肺癌、気胸など手術経験が豊富です。 内科・外科ともに経験豊富で優秀なスタッフがそろっております。国内外の学会での参加・発表も積極的に行っております。 また神経内科は神経変性疾患についての診療に特化しており、この領域での研修も可能となっております。	本院は、病床数470床、27診療科を有し100名を超える医師が勤務する山陰の中核病院として地域医療に貢献しています。 がんセンター、緩和ケア病棟やICUを設置し、災害時拠点病院としての機能も有しています。 地域がん診療拠点病院、地域医療支援病院、などの指定を受け、地域に密着した医療を行っています。 研修医の希望に沿ったプログラムと経験豊かな指導医による有意義な研修を提供することにより、ResearchMindを持った内科専を育成したいと思っております。 やる気のある諸君の応募をお待ちしております。	松江生協病院の内科専門医研修は、内科系のどのsubspecialty領域に進むにおいても必要となる、内科系全領域に共通する総合的臨床能力の習得が目標です。そして、専攻医の皆さんが将来どの道に進むのが適しているのかを見極めるうえで、極めて重要な研修であると考えています。 松江生協病院の内科専門医研修では、専攻医の皆さんは、すべての領域の内科系急性疾患が入院する総合診療病棟で研修を行うこととなり、内科系のcommon diseaseに対する診療能力を、大変効率よく習得できます。 また、松江生協病院の内科専門医研修では、WHOが表明しているSDH(健康の社会的決定要因)を重視しています。人々の健康状態に影響を与えている社会的、経済的、環境的背景をも考慮して、診療を行うことができる能力を身につけてもらうことも、内科専門医研修の目標と考えています。そのため、コメディカル・スタッフやソーシャルワーカーも加わった多職種カンファランスを重視し、適宜住診なども研修に取り入れます。 さらに、松江生協病院は、質の高い医療を分け隔てなく提供することを目標に掲げ、救急隊の要請、施設や他の医療機関からの紹介については、“絶対に断らない”という構えで臨んでいます。どんな患者であってもまずは初療を行い、自らの診療能力を最大限に発揮して対応し、限界を超える時には適切に紹介するという診療態度を、外来研修、救急研修を通じて身につけてもらう研修を行います。	当院は松江安来2次医療圏の基幹病院として、心血管、脳血管疾患をはじめとする3次救急医療を担うほか、がん拠点病院として広くがん診療にたずさわっております。 内科系には糖尿病内分泌内科、血液内科、消化器内科、膠原病腎臓内科、脳神経内科、循環器内科、呼吸器内科、総合診療科がそろっておりひろく内科を学べるとともに、それぞれの領域での高度な専門的研修が受けられます(一部サブスペシャリティとの並行研修可能) また災害拠点病院としての機能を持ち、DMATや赤十字救護隊を災害地へ派遣し急性期から復興まで息の長い災害救護を支えています。	当院は、一般病棟(地域包括ケア病棟を含む)と療養病棟からなり、総病床数は116床です。当院の松江地域における位置づけは、急性期医療治療後の回復期および慢性期医療の提供です。また、法人内には外来診療、介護医療院、老人保健施設、訪問看護、訪問リハビリなどの部門もあり、急性期医療後の包括的医療介護サービスの提供を実施しています。 開院当初より予防医療にも力を入れており、日本人間ドック学会から機能評価認定施設、全国労働衛生団体連合会より労働衛生サービス機能評価認定施設として認定されています。 急性期病棟では経験できない急性期医療後の地域医療の研修が可能です。	当院は社会福祉法人が設置運営する医療型障害児入所施設・療養介護事業所を併設した病院です。 一般病棟(障害者施設等入院基本科)60床と療養病棟(療養病棟入院基本科)40床の計100床の入院施設で、重症心身障害児者の方を中心に長期療養を要する方々の治療及びリハビリ等を行っております。成人の脳性まひをはじめ障害者の方々を診ていただくことができます。 超高齢化社会を迎える中で、高度急性期後の患者を病院と地域で一体となって見守る、全人的医療の実践ができる病院であり、当院での診療経験は内科医としてどういう方向に進んでも、かけがえの無い経験としてその後に活かせると思います。	当院は、雲南市立病院は島根県東部の雲南市を含む雲南2次医療圏(東京23区の2倍弱の面積、圏域住民約6万人)の地域中核病院であり、地域に根差したプライマリ・ケアから高度医療、さらには在宅医療や終末期医療まで、幅広い医療を展開しています。 平成31年4月からは、市内にある併合診療所を、当院の附属診療所とし、中山間地域の限られた医療資源の中で、NPO/行政/住民自治組織等と連携しながら、マネジメントやリーダーシップが取れる医師を育成します。 また、研修医の先生が少ない当院では直接関与できる症例が多く、密度の濃い研修が可能で、隣接する松江医療圏、出雲医療圏には医療資源が豊富な地域と隣り合わせ、都市型病院との連携の仕方が実践できる医師も育成します。 医師との相談や連携により必要な知識や技術の向上を支援しています。	
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。	呼吸器疾患全般、神経疾患(特に変性疾患)の診療について研修可能です。	きわめて稀な疾患を除いて、幅広く症例を経験することができます。	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例を経験することができます。	一部の稀な疾患を除き、研修手帳掲載のほとんどの症例を経験できます。	総合内科内科II(高齢者)を中心に経験可能。 複数の疾患を併せ持つ高齢者の全人的な治療、管理が経験できます。	重症心身障害児者	カリキュラムに有る13領域のうち、総合内科I、総合内科IIと消化器疾患が中心になります。	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。	呼吸器内科外来診療、病棟での各種処置、気管支鏡検査などを通じて呼吸器専門医として必要な幅広い知識・技術習得が可能です。 また、当院は県内唯一の結核・抗酸菌症治療の専門施設であり、呼吸器専門医として必須であるこの領域の知識・技術の習得が可能です。また、神経変性疾患の診断・治療の知識・技術習得も可能です。	内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。	技術・技能評価手帳ほぼ全てを経験できますが、JMECCについては当院では開催しておらず他施設での受講を支援します。	入院患者の主治医となり、全人的な視点より治療方針を決定し治療・管理を実施します。外科医師の指導下、切開や縫合の実施、胃瘻造設、中心静脈ポート増設術が経験できます	障害者の内科診療	技術・技能評価手帳にある内科医に必要な技術・技能を実際の症例に基づき、特に消化器領域について経験できます。	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。		急性期医療や最新の機器を使用した、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携・往診・診療所なども経験できます。	多職種とチーム医療をしつつ、日頃の診療を通じて病診・病病連携を実際に学ぶことができます。	退院調整を通じて、家族との治療方針の決定や他職種との連携が経験できます。	在宅障害者のショートステイ利用時の内科診療	訪問診療の行い方、地域の医療スタッフ、介護スタッフとの連携のとり方、などが経験できます。	地域に根ざした病院として、プライマリケアから高度医療、さらには入院、外来、在宅医療など非常に幅広い医療を行っています。

オール島根内科専門医研修プログラム 施設情報一覧

	医療法人陶朋会 平成記念病院	町立奥出雲病院	飯南町立飯南病院	島根県立中央病院	出雲市民病院	医療法人 壽生会 寿生病院	出雲市立総合医療センター	斐川生協病院
担当者連絡先	事務局長 永井 大介 TEL：0854-45-5111 Fax：0854-45-5114 Mail：d-nagai@heisei-hosp.jp	内科部長 和田 昌幸 電話0854-54-1122（代表）	副院長 永澤 篤司 管理部 和田泰裕 0854-72-0221（代表）	臨床教育・研修支援センター 長瀬 純子 島根県出雲市飯原四丁目1-1 TEL(0853)30-6445/FAX(0853)30-6437 kouki@spch.izumo.shimane.jp	医局秘書課 足立 祐貴 〒693-0021出雲市塩治町1536-1 TEL：0853-21-2722 mail：hisyoka@izumo-hp.com		内科診療部長 駒澤 慶憲 TEL：0853-63-5111(代表) Mail：komazawa@384.jp	大国 圭介（事務） 出雲市斐川町直江4883-1 Tel 0853-72-0321 Fax 0853-72-0322
指導責任者より内科専攻医へのメッセージ	当院は、雲南市三刀屋町に平成24年に開設した病院で、診療科は13科、病床数は115床（一般60、医療療養55）です。 救急指定病院、地域医療拠点病院の指定を受け、地域住民の皆様の幅広いニーズにお応えしています。 介護老人保健施設平成苑（50床）を併設し、また関連施設として特別養護老人ホーム梅里苑も隣接しており、高齢化が著しいこの地域において、各施設との連携を推し進めながら保健・医療・福祉の充実と向上に貢献することを使命としています。 外来・入院・透析の3つを柱とし、1日平均の外来患者数は141人、入院患者数は100人、透析患者は雲南圏域内の透析患者約100人のうち60人程度を受け入れ、通院ができない患者様へは送迎も行っています。 人口減少・高齢化がますます進展していく中で、地域の開業医も減少が続いており、地域医療を守っていくためには志の高い若手医師の存在が不可欠です。当院ではこれからの地域利用を担うべき人材として、内科専門医を育成します。	当院は島根県の東南端、仁多郡奥出雲町にあり松江市や出雲市へ車で約50分のところであり広島県と鳥取県に接した山あいの中規模病院であります。 施設はアメニティ重視のバリアフリーとしており、仁多郡内唯一の病院として救急告示病院を掲げ急性期医療はもとより回復期医療も行っています。また健康センター、訪問看護ステーションを併設し、地域の保健・医療・福祉の拠点として大きな役割を担っております。 また、ソーシャルワーカーを複数配置し入退院や他施設との調整を積極的にすすめ、訪問診療や訪問リハビリ、訪問看護などの在宅医療や、地域医療課を窓口とした地域住民の検診や人間ドック、講演会、マクニティ教室や生活習慣病教室、がんサロンなどの開催も定期的に行っています。	当院は中山間地域に位置する飯南町にあって唯一の病院で、地域の医療・介護・福祉の中核を担っており、老若男女を問わず様々な疾患を専門領域を問わず総合的に診ることをモットーに地域の医療に貢献すべく診療を行っています。 この地域で唯一の救急告示病院として、24時間365日救急患者を受け入れ、当院で行える医療に関しては地域完結型の医療を提供し、また専門的治療が必要な場合には初期対応を行った上で三次医療機関へ紹介をし、治療後のfollow upを当院で行えるように各医療機関との連携を図っています。 様々な疾患を合わせた患者をみることを通して、臨床能力を高めるように研修を行い、総合的な能力を持った内科専門医の育成を支援します。	島根県立中央病院は、島根県出雲医療圏の中心的な急性期病院であり、一次から三次までの救急診療を受け持ち、地域の病診・病病連携の中核です。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、外来入院機能をもつ総合診療科にてコモンディジーズの経験はもちろん、内科専門科においても超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もできます。 緩和ケア、感染制御、リエンチームなど横断的な総合内科領域のチーム医療も経験できます。内科系専門学会の認定施設でもあり、サブスペシャリティー領域の研修を並行して行うこともできます。総合的な医療能力を備えた医師を養成したいと考えています。	当院は、高次医療機関である島根大学医学部附属病院、島根県立中央病院の2病院、さらに、開業医も多い中で、高次医療機関と在宅医療をつなぐ役割を担うため、出雲圏域内で初めて地域包括ケア病棟の運用を2016年に開始しました。「患者が退院後に安心して地域で生活をおくることができるよう支援する」ことを目標に、多職種が協働し、包括的に患者に関わっています。 内科診療科において、一般内科病棟、地域包括ケア病棟、一般内科外来で特定の臓器疾患に限定せず、複数のcommon diseaseを同時に有するケースを経験し、疾患の医学生物学的な治療のみではなく、患者の心理社会的問題も含めた全人的医療を研修するのに適しています。		当院は循環器や呼吸器、神経内科、消化器まで全て「内科」で診療を行っています。外来での診察・検査からの入院決定、さらに入院での治療方針から退院に向けてのリハビリ計画・在宅サービス支援の決定まで、全て自分自身が主治医として行い、一人の患者、一つの疾患に対する総合的な実践力を養うことができます。 特に内視鏡診療に力を入れており、スクリーニング検査であれば自分一人ですることができるレベルに達することを目標に指導しています。 さらには「内科」の枠を超えた診療も可能であり、他科の経験豊富な指導のもとで幅広い総合診療を実践することが可能です。 臨床研究にも力を入れており、国際学会や全国学会での発表、論文作成などの活動にも積極的に取り組みます。 やる気があればいろんな事にチャレンジ可能です！一緒に頑張ってみませんか！	当院は120床の療養病床で在宅から入院まで地域に密着した慢性期医療を行います。最近では、病棟ではホスピスケアに力を入れています。多職種カンファレンスなどのチーム医療に取り組み、患者中心の医療福祉を実践しています。 また、介護保険にも対応し、2つのデイサービス、訪問看護ステーション、訪問リハビリ、居宅介護支援事業所、サービス付き高齢者向け住宅も展開しています。 2017年8月には看護小規模多機能事業所も開設しました。
経験できる疾患群	高齢者・慢性長期療養患者の診療を通じて、幅広く症例を経験することができます。	主治医として内科学会研修手帳にある総合内科、高齢者総合内科の内容をはじめとして、いわゆるcommon diseaseである肺炎、気管支喘息などの呼吸器疾患、慢性心不全急性情態、不整脈などの循環器疾患、糖尿病などの内分泌疾患の経験が可能です。 胃潰瘍、十二指腸潰瘍、急性膵炎などの消化器疾患の経験も可能ですが、必要時には外科医に協力をお願いしその指導を仰ぐこともあります。 高齢者が多く、multiple problemを有する患者への対応を学んでいきます。また、急性心筋梗塞、脳梗塞の血栓溶解療法など高度医療、透析に関しては当院では対応できず、これらの緊急を要する疾患に関しては救急外来を担当することを通して早期に診断し、高次機能病院との連携をとる方法について学びます。	研修手帳にある13領域70疾患群の症例（稀な症例など一部を除く）を幅広く経験することができます。	総合診療科、感染症科、救命救急科および各専門診療科があり、研修手帳（疾患群目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科Ⅰ（一般）と総合内科Ⅱ（高齢者）および救急の分野で専門研修が可能な症例数を診察しています。救急の分野については、高度ではなく、一次の内科救急疾患、より一般的な疾患が中心となります。		研修手帳（疾患群目表）にある13領域の症例を経験することができます。 特に、総合内科、消化器、代謝の領域の充足度は満たされています。	
経験できる技術・技能	小規模病院であるがゆえに臨床科の垣根が低く、内科専門医に必要な技術・技能を広く経験することができます。また自らが「主役」として診療にあたる事が可能です。	総合内科としてmultiple problemを有する患者を担当することにより、一人ひとりの患者の問題点を見出すための診断について学び、それを解決するための方針について学びます。 また、カンファレンスを通して担当外の症例についても学び、幅広い疾患について理解を深めていきます。 検査、処置技術についても指導医の指導下で内科一般にて必要と考えられる腹部・頸部エコー、胸腔・腹腔穿刺、排液処置についても習得を目指します。さらに、希望があれば上部内視鏡、また心エコーなどの習得にも配慮します。	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を幅広く経験することができます。各種超音波検査については実際の症例を通して多く経験できます。	総合診療科、感染症科、救命救急科および各専門診療科があり、技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます	胃糞造設、胸腔穿刺、内視鏡、V/F等		一般内科、総合内科としての力を身につけることができます。自分の専門以外の疾患に対する幅広い対応力をベテラン医師の指導のもとに経験・習得することができます。消化器診療は指導医も充実しており、消化器専攻でなくても上下部内視鏡スクリーニング検査も一人ですることができることも可能です。また、当院で考案した「パワーレス大腸内視鏡挿入法」の技術も研修中に習得可能です。全国から見学や研修に来院されるこの挿入法は、消化器内科を目指す女性医師には有利な挿入法です。 さらに胆膵疾患専門医、肝臓専門医も在籍しており、ERCPや肝臓ラジオ波焼灼術などの治療技術もしっかりと経験できます。	
経験できる地域医療・診療連携	併設老健、関連施設を始めとして、地域の診療所や介護保険施設とも連携して地域医療・診療連携について学ぶことができます。	急性期大規模病院からの転院患者を担当し、今後の療養方針の決定に参画することで地域での病診連携について学び、かつ医療ソーシャルワーカー、訪問看護師との話し合いにも参加し、地域での多職種連携についても経験できます。さらに、希望のあった患者宅への訪問診療も行っており、在宅医療に自ら携わることも可能です。	内科総合医として入院や外来診療といった院内での内科一般診療を行うだけでなく、訪問診療などの在宅医療や介護施設での診療といった院外での診療を通してプライマリケア医としての経験もできます。また介護・福祉施設との合同カンファレンスや健康教室などを通して保健・福祉業務についても経験できます。	ドクターヘリの基地病院という機能により高度急性期・急性期医療を担うことはもちろん、医療情報連携ネットワーク『まめネット』を活用して、地域の医療者と繋がりながら、地域中核病院としての病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。	一次救急から高度急性期への連携、急性期から回復期・慢性期への連携、医療・介護連携、在宅での地域包括ケア		総合内科として診療するため、多彩な疾患に対する急性期での入院治療から包括ケアシステムを利用した在宅復帰支援、さらには退院後の外来診療や開業医、訪問看護・介護ケアサービスとの連携による充実した地域連携診療が経験可能です。 また、塩津診療所および鷺浦診療所への医師派遣により、診療所に通院できない患者さんに対しては往診も行っています。地域のニーズに応えるべく「ここでしかできないいへき地医療」を提供しています。地域に密着した診療を体験しませんか！	療養病床だけでなく在宅医療にも対応し、地域に根差した医療・病院、介護事業所との連携なども経験できます。 内科一般診療、在宅及び往診、療養病床における治療、介護事業所の特徴を知り、連携する。

オール島根内科専門医研修プログラム 施設情報一覧

	出雲徳洲会病院	大田市立病院	邑智郡公立病院組合 公立邑智病院	社会医療法人 仁寿会 加藤病院	独立行政法人国立病院機構 浜田医療センター	医療法人 慈誠会 山根病院	島根県済生会江津総合病院	医療法人 慈誠会 山根病院三連分院	社会福祉法人 島根整肢学園 西部島根医療福祉センター
担当者 連絡先	内科部長 佐藤 博 E-mail:satohiroshi71@yahoo.co.jp Tel : 0853-73-7000 (代) Fax : 0853-73-7077	臨床研修推進室 係長 坂本 貴子 TEL : 0854-82-0330 FAX : 0854-84-7749 e-mail : kensyu@ohda-hp.ohda.shimane.jp	総務課 林 亜衣 Tel : 0855-95-2111 Mail:hayashi-ai@ohchihospital.jp	副院長 大畑 修三 電話 0855-72-0640 E-mail zou@k-jinju.or.jp 事務担当 上田 裕一 電話 0855-72-3040 E-mail ueda@k-jinju.or.jp 住所 〒696-0001 川本町大字川本383-1 FAX 0855-72-3039	管理課庶務班長 TEL : 0855-25-0505 (代表) FAX : 0855-28-7070 (代表)	事務長：岡本 克正 TEL 0855-26-0688 FAX 0855-26-0770 e-mail yamanejimu@yamane-hp.jp	総務課：和原 島根県江津市江津町1016-37 TEL 0855-54-0101 FAX 0855-54-0171 E-mail i-wahara@saiseikai-gotsu.jp	事務長：石川達也 TEL : 0855-32-4343 FAX : 0855-32-2851 e-mail : misumi4344@shimane.email.ne.jp	医事課 澤上 美智子 ☎695-0001 島根県江津市渡津町1926 電話：0855-52-2443
指導 責任者 より 内科 専攻 医への メン ター シ ー ジ	出雲徳洲会病院では地域に根差した医療機関として、地域のニーズに合った急性期医療、療養病棟、回復期リハビリ病棟の充実を図っています。急性期医療の要となる救急医療では、内科を中心とした総合診療医による救急医療を実施しています。そのため救急初期対応だけでなくER型とは異なり、入院担当も引き続き担当することができます。そのため内科系疾患の救急初期対応から退院計画に至るまで主治医として一貫して経験することで、地域のニーズに応えられるGeneralityを兼ね備えた内科専門医の育成を目標としております。	common diseaseを中心として多岐にわたる病態の診療に、初診の段階から関わることが可能です。患者さんの訴えにいち早く応答することができ、臨床推論や診断学の訓練に適したフィールドと思われます。	邑智病院は人口18000人程度の邑智郡内唯一の救急告知病院です。年間600から700台程度の救急車受け入れがあります。ほぼすべての救急患者を受け入れ、診断し、緊急手術や心臓カテーテル治療といった侵襲的かつ専門的治療は第三次救急医療機関へ搬送し、可能な限りの救急疾患患者の入院治療を行います。 平成26年から地域包括ケア病床を立ち上げ、要介護状態になっても、住み慣れた地で自立した自分らしい生活を人生の最後まで続けられるよう支援を行っています。在宅復帰率は平成29年度までは平均86.8%、平成30年度に入っても88.5%と退院後も自立度の高い生活を提供しています。 すべての疾患に対応可能な技能を持ち、患者さんに寄り添った包括的な医療が行えるよう、研修体制を整えています。	私達は、専攻医の皆さんが田舎を主たる学びのフィールドとして、患者中心の医療を専門職・地域協働で実施できるようになることを目指しています。さらにキャリアセルフリライアンス（自ら主導して自律的に自身のキャリアを形成する）を行える医師となることを支援します。 最終的には、保健・医療・介護・福祉の総合的視点をもって、患者・利用者中心に、有機的な医療関連専門職連携により、包括的な保健予防活動・診断・治療・コンサルティング・マネジメントを実践する基本を身につけてもらいたいと考えています。 当院での研修の特徴として四つ提示します。 ひとつはDiversity多様性：多様な学習の場と人材があること、ふたつにInterprofessional education専門職連携教育；質の高いヘルスケアチームによるケアの提供を学ぶことができること、そしてInteractive双方向性；教えることは学ぶこと、学ぶことは教えることの実践、最後にLearner centered学習者中心；キャリアセルフリライアンス支援を有していることです。 私達 社会医療法人仁寿会の願いは、学習者・患者・家族をはじめとする全ての人々の成長をもって、地域の自律的な社会健康課題への解決と地域の人々の健康長寿や生きがいの実現に貢献することです。	当院は、島根県浜田市にあり、政策医療分野におけるがん、循環器病の専門医療施設であり、地域医療支援病院の承認を受けるほか、救命救急センターを有し、県西部の3次救急医療を担っております。 島根県西部での放射線治療が可能な病院で、PET-CT、緩和ケア病棟を有しており、西部のがん拠点として取り組んでいます。また3次救急を担う救急救命センターがあり、年間11000人の救急外来患者を受け入れています。島根県西部の医師不足の中で26診療科を標榜しておりますが、各分野で専門医認定制度に対応し、さらに大学の各教室と綿密に連携し補充できる体制をとっております。医師の事務補助体制も充実しており、医師が診療に専念できる環境を整えております。医師の負担軽減と病院機能の向上を目指し、当院ではチーム医療を推進しています。15名の認定看護師（特定看護師2名）を中心に各職種からなるチームが横断的に活動し、診療面での医療とケアが連携できるように取り組んでいます。 今後の専門性の方向付けを決める段階として、また、すでに専門を定めた医師にとっても当院での経験はその後の専門医の取得の際に役立つと思われるので、島根県西部で診療に従事しながらキャリアアップをめざしている先生には是非当院での研修をお勧めします。	当院は島根県西部唯一の糖尿病認定教育施設です。 主に慢性期医療を行い地域医療に根ざした医療を提供しています。 診療科は内科、外科、整形外科、こころ科の4科で入院は55床です。療養型病床です。三隅町に60床の分院があります。 専門医は整形外科専門医1名、内科専門医3名、糖尿病指導医（糖尿病専門医）1名、内分泌指導医1名、肝臓専門医1名、血液専門医2名の体制です。糖尿病については管理中の糖尿病患者数は700名前後、入院は年70名。管理栄養士4名、糖尿病療養指導士 10名で患者対応栄養指導、糖尿病教室、療養指導、糖尿病カンファレンスなどを行っています。	高齢者の多いこの地域では急性期はもとより慢性期や在宅医療等の幅広いニーズがあり、これらの環境を生かして慢性期疾患や在宅医療について幅広く研修を受けることが出来ます。 主担当医として外来診療もでき、初診から入院、退院後の通院まで可能な範囲で経験できます。また、当院は慢性期病棟を有しており慢性期病棟での研修も受けることが出来ます。	当院は浜田市の最西端に位置し、60床の療養病床をもつ医療機関です。診療科は内科で、主に慢性期医療を行い、浜田・益田園地の患者を受け入れています。専門医は常勤医として血液専門医（総合内科専門医）1名、非常勤として肝臓専門医1名、糖尿病指導医（糖尿病専門医）1名の体制です。	当センターは主に重症心身障害、ペルテス、二分脊椎などの肢体不自由児とその成人、発達障害児、遺伝性疾患、神経・筋疾患の患者を診療し、その方々の療育、人生の支援を行う施設です。一方、地域医療では文字通り、地域の方々への診療、見の健診、発達障害の健診は島根県西部地域を網羅しています。 内科の研修としては総合的な医療と障害特性に沿ったアプローチが学べます。 平成28年より常勤医が不在のため、不安があるかもしれませんが、島根大学医学部循環器内科・神経内科・糖尿病内科、消化器内科の医師派遣により指導を受けることも可能となっており、どちらかという独立した診療、治療計画が行え、やり甲斐があると思います。 その他の特徴として、リハビリのセラピスト・看護師・社会福祉士・介護福祉士・保育士などと多職種でのアプローチを経験できることといった特徴もあります。また、障害児者とその家族の心に寄り添って診療を行うことは、長い医師人生に於いて必ずや役に立つ経験になると思います。
経験 できる 疾患 群	研修手帳（疾患群項目表）にある13領域の症例を幅広く経験することができます。特に高齢者は複数の疾患および問題を抱えており、polypharmacyの問題も含めて多岐にわたる疾患群の対応法を経験することが出来ます。	頻度の多い疾患は確実に、まれな疾患は運と偶然によって出会うことができます。	稀な疾患を除き、内科領域13分野、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。	肺炎や腎盂腎炎、胃潰瘍など日常遭遇する頻度の高いコモンな疾患、研修手帳（疾患群項目表）の総合内科Ⅰ、Ⅱ、Ⅲにある症例や技術・技能評価手帳の総合内科Ⅰ、Ⅱ、Ⅲにある主要症候を有する症例、そして複雑性(complexity)の程度が大きい困難事例（例僻地の患者で社会的に孤立しており、家族の支援も期待できない、経済的にも困窮しており、脳梗塞後遺症、糖尿病、慢性腎不全がある。最近認知症の悪化のため独居生活が困難になってきた場合のマネジメントをどうするかなど。）など経験することができます。	当院の標榜診療科群で取り扱う領域、疾患の症例を幅広く経験することができます。	研修手帳（疾患群項目表）にある代謝疾患群の症例を経験することができます。	経験できる疾患群 研修手帳（疾患群項目表）にある総合内科Ⅰ～Ⅲ、消化器、循環器を主として、各疾患群の症例を幅広く経験することができます。	研修手帳（疾患群項目表）にある総合内科Ⅰ（一般）、代謝疾患群について幅広く経験することができます。	神経・筋疾患など主に肢体不自由児者・重症心身障害児者の内科全般。 内科系非常勤医師による内科（循環器・神経内科・糖尿病内科・消化器内科）研修の他、当センター常勤医による専門的医療。 障害をお持ちの方の多科による総合的な診療。
経験 できる 技術・ 技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら経験することができます。	技術・技能評価手帳にある専門医に必要な技術・技能を実際の症例に基づきながら経験できます。	すべての疾患の診断と初期治療、感染症・心不全・脳血管疾患・緩和ケアなどの入院外来治療。上部消化管内視鏡検査、胸部、腹部超音波検査を経験することができます。	技術・技能評価手帳にある総合案内Ⅰ、Ⅱ、Ⅲにある基本的な診療技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。	内科専門医に必要な技術・技能を実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら経験することができます。	急性期から慢性期まで内科専門医に必要な技術・技能を実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。	・ボトックス療法 ・ITB療法（ITBコントロール）
経験 できる 地域 医療・ 診療 連携	島根大学医学部附属病院の専門医と連携を取りながら、急性期～回復期のステージに応じて幅広い診療連携を行っております。	当院は地域の中核病院という位置づけであり、地域への開かれた窓口として、病院連携、病病連携などが経験できます。	地域に根差した医療、病病連携、病診連携、退院支援、退院調整会議や個別ケース検討会への出席、主治医意見書の作成など経験することができます。	月2回の定期訪問診療を継続的に行なうだけでなく、24時間、365日体制で臨時往診にも対応しています。患者様急変時には強化型在宅療養支援病院である加藤病院への入院対応が可能であり、患者様・家族が希望する際には在宅看取りがスムーズに行える連帯体制をケアマネ・診療所看護師・訪問看護師と構築し、癌患者、非癌患者様両者へ、在宅緩和ケアを積極的にこなしています。 また、学校の養護教諭、役場などと連携しながら、病院健診事業、予防接種等疾病予防活動、地域における健康教室の開催、地域における臨床疫学研究、産業医活動、学校保健活動等も行なっています。 診療連携としては、循環器疾患、消化器疾患、神経内科疾患、婦人科疾患、泌尿器科疾患、整形外科疾患、ペインクリニックについては院内の各専門医と連携して診療に当たり、内分泌代謝科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科については島根大学病院から、多くの臨床指導医が来院し、診療活動に従事しつつ、常勤医への専門的な指導を行なっています。そして総合診療専門研修中においても様々な専門技能を修得、維持、ブラッシュアップさせることが可能です。一方、邑智病院、大田市立病院、済生会江津総合病院、島根県立中央病院、島根大学病院などと連携をとりながら急性期から慢性期まで幅広い病態に対応できるようにしています。	島根県西部地域の医療機関と連携を密にしており様々な経験をすることが出来ます。	地域に根ざした医療、病病・病診連携、在宅医療の提供。	江津総合病院の関連施設である老人保健施設（高砂ケアセンター）や特別養護老人ホーム（白寿園）などの福祉施設において、急性期から慢性期、リハビリを経て在宅まで、シームレスな研修が可能です。	高齢化社会に対応した地域密着医療、病病連携、病診連携、在宅医療の提供。	周辺医療機関・二次医療機関と連携をはかりながら、地域によりそった医療を行います。併設の入所支援施設など施設入所者の健康管理を行います。

オール島根内科専門医研修プログラム 施設情報一覧

	益田赤十字病院	公益社団法人益田市医師会立 益田地域医療センター医師会病院	津和野共存病院	社会医療法人 石州会 六日市病院	隠岐広域連立隠岐病院
担当者連絡先	総合診療科 部長 岡本 栄祐 0856-22-1480 (総務課：米山 祐貴)	総務課 課長 椋 健朗 島根県益田市遠田町1917番地2 TEL 0856-22-3611 FAX 0856-22-0407	事務部 河野 電話：0856-72-0660 (代表)	総務人事課長 高橋まゆみ 〒699-5513 島根県鹿足郡吉賀町六日市368-4 TEL 0856-77-1581 FAX 0856-77-1580 E-mail mayumi-takahashi@sekisyukai.or.jp	隠岐病院 島の医療人育成センター 係長 上野俊之 TEL08512-3-1811 fax08512-2-6149 Mail：t-ueno@oki-hospital.com
指導責任者より内科専攻医へのメッセージ	当院は、島根県西部に位置する益田圏域の中核病院です。 8万人規模の圏域でその広さは香川県に匹敵します。 内科を専攻する上で、若いうちに多くのcommon diseaseを経験することが大切です。多くの、患者さんが様々な症状を訴え、当院を受診されますので、幅広い分野の、common diseaseを多く経験する機会が当院にはあります。 また、当地域が抱える大きな問題は、患者の高齢化です。2025年に後期高齢者の数が最大となり、様々な問題が生じるといういわゆる「2025年問題」にすでに直面し、また圏域医療崩壊も進行しており、今後まさに日本全体が直面する問題にすでに我々は対峙しております。そのなかで老老介護、独居老人など、多くの背景をもつ患者さんの疾患だけを診るのではなく、患者さんの生活をふくめた全人的な医療を行うとともに、中山間地域の医療を守る必要があります。ここでの経験は、皆さんの今後の医師としての人生の大きな糧となり、将来目指すべき医師像を見つけることができると思います。 地域の皆さんの「笑顔」を絶やさないためにも、ともに皆さんと働けることを願います。	「院長 狩野 稔久」 当院は、益田市医師会の開業医の先生方が地域医療の充実を目的として昭和61年5月に開設された全病床開放型病院、共同施設利用の地域医療支援病院です。 開院時よりすべての病床を共同利用施設として医師会員に開放し、施設、検査機器も共同で利用しています。また、保健予防・医療・福祉の三位一体による一貫した地域医療サービスを提供することを目指しており、地域医療の発展にさらなる貢献を行い地域住民の期待に答えたいと考えています。 住民の医療ニーズが高度化かつ多様化する中で、診断、治療のみならず、健康増進、疾病予防からリハビリテーション、ターミナルケアにいたるまで幅広いサービス提供が求められています。そのニーズに応えるため一般病床、療養病床での医療提供のほかに、人間ドック、特定健診、小・中・高校の学校健診、企業健診など子どもから老人までの健診事業を行う保健予防センターや、また訪問看護ステーション、ホームヘルプ事業所、市立介護老人保健施設、介護療養型医療施設も併設し高齢者対策にも意を用いています。さらには平成16年5月、遠隔の地での治療を余儀なくされていた回復期リハビリテーションを行うため、総合リハビリテーション施設及び回復期リハビリテーション病棟（44床）を開設するとともに、特殊疾患病床（48床）を開設し、高齢社会に対応したリハビリテーションにも力を入れています。 また、常に職員にとって働きやすい職場を目指しており、仕事と子育ての両立支援を目的に平成18年4月より、24時間保育も可能な職員専用の保育所（44名定員）も開設し、365日対応をしています。 急性期から回復期、慢性期、維持期、在宅まで、さまざまなフィールドのある当医師会病院で、皆さんの希望に沿う、医療と一緒に提供できれば幸いですと考えています。	津和野共存病院（在宅療養支援病院）は町内唯一の入院機能を持つ病院であり、津和野共存病院を運営する法人は、津和野共存病院の他に、診療所、介護老人保健施設、訪問看護ステーション、在宅専門診療所を有し、外来、救急、入院、介護入所、退院後は訪問診療と一連の医療が提供でき、また行政の地域医療対策課（地域包括支援センターを含む）が病院内に設置されています。行政とともに地域の課題を解決し地域包括ケアをリアルタイムに実践しながら指導医と学び合い成長の場として研修が受けられます。	当院は島根県西部、広島県、山口県の県境に位置し、中山間地域に位置する。当町はその面積のほとんどが山、森に覆われており冬には大雪となることもある地域で、六日市病院は町にある唯一の病院として6500人の住民に医療を提供している。 当院では、『地域に生きる人の日常性を維持する』、『地域に生きる人の非日常事態に備える』をモットーに、病院総合医を育成する。総合医は、一般的な病気の診断と治療、初期救急、適切な紹介、慢性疾患の長期管理、健康増進と疾病予防、チームにおけるリーダーシップ、全人的包括的医療を役割とし、病院における、教育(看護師、医療従事者)、管理(感染対策、労務)、経営(費用対効果の考慮、TQMやPDCAサイクルを用いた質の改善)を行う。 当院は、訪問診療を含めた外来機能及び入院施設、老人保健施設も兼ね備えており、総合内科医を育成する環境としてはうってつけである。	加藤一朗（島の医療人育成センター長） 隠岐病院は隠岐の島町にある唯一の病院です。そのため島内の入院を要する急性期の症例は全て当院を受診されますので、本土との医療機関とも連携をとりつつ（時には重症症例の緊急搬送もあります）、当院医師には幅広い疾患に対応することが求められます。 当院は平成24年5月に新築転移され、病床数は一般91床（急性期65床、地域包括ケア26床）、精神22床、感染2床の計115床です。平成29年度外来患者数113,803人、救急外来患者数5,542人（うち救急車385人）となっており、CT, MRI等検査機器を備えています。
経験できる疾患群	common diseaseを含め、研修手帳にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験できます。高齢者は複数の疾患を併せ持つため、疾患のみを診るのではなく全身を総合的に診る医療の実践が可能です。	一般的な症候に対し、臨床推論に基づく鑑別診断及び、他の専門医へのコンサルテーションを含む初期対応を適切に実施し、問題解決に結びつける経験を行うことができます。	貧血、脳・脊髄血管障害、脳・脊髄外傷、脳変性疾患、脳炎・脊髄炎、一次性頭痛、湿疹・皮膚炎群、蕁麻疹、薬疹、皮膚感染症、骨折、脊柱障害、心不全、狭心症・心筋梗塞、不整脈、動脈疾患、静脈・リンパ管疾患、高血圧症、呼吸不全、呼吸器感染症、閉塞性・拘束性肺疾患、異常呼吸、胸膜炎・縦隔・横膈膜疾患、食道・胃・十二指腸疾患、小腸・大腸疾患、胆管疾患、肝疾患、膵臓疾患、腹壁・腹膜疾患、腎不全、全身疾患による腎障害、泌尿器科的腎・尿路疾患、妊婦・授乳婦・褥瘡のケア、女性生殖器およびその関連疾患、男性生殖器疾患、甲状腺疾患、糖代謝異常、脂質異常症、蛋白および核酸代謝異常、角結膜炎、中耳炎、急性・慢性副鼻腔炎、アレルギー性鼻炎、認知症、依存症、気分障害、身体表現性障害、ストレス関連障害・心身症、不眠症、ウイルス感染症、細菌感染症、膠原病とその合併症、中毒、アナフィラキシー、熱傷、小児ウイルス感染、小児細菌感染症、小児喘息、小児虐待の評価、高齢者総合機能評価、老年症候群、維持治療機の悪性腫瘍、緩和ケア	急性期の症例だけでなく、高齢者・慢性期の幅広い症例を経験出来ます。当院内科は、循環器、消化器、呼吸器等臓器別に分かれていないため、全ての臓器の内科疾患を、初診から入院の診断・治療を指導医のもと担当します。
経験できる技術・技能	症例を通して内科専門医に必要な技術・技能を、経験することができます。	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。	1. 外来・救急・病棟・在宅という多様な診療の現場で遭遇する一般的な症候及び疾患への評価及び治療に必要な身体診察及び検査・治療手技。 2. 患者との円滑な対話と医師・患者の信頼関係の構築を土台として、患者中心の医療面接を行うコミュニケーション技法。 3. 診療情報の継続性を保ち、自己省察や学術的利用に耐えうるように、過不足なく適切な診療記録を記載し、他の医療・介護・福祉関連施設に紹介するときには、患者の診療情報を適切に診療情報提供者へ記載して速やかに情報提供することができる能力。 4. 生涯学習のために、情報技術（information technology；IT）を適切に用いたり、地域ニーズに応じた技能の修練を行ったり、人的ネットワークを構築することができる能力。 5. 診療所・中小病院において基本的な医療機器や人材などの管理ができ、スタッフとの協働において適切なリーダーシップの提供を通じてチームの力を最大限に発揮させる能力。	【検査】① 各種の採血法（静脈血・動脈血）② 簡易機器による血液検査・簡易血糖測定・簡易凝固能検査、採尿法（導尿法を含む）③ 注射法（皮内・皮下・筋肉・静脈注射・点滴・成人及び小児の静脈確保法、中心静脈確保法を含む）④ 穿刺法（腰椎・膝関節・肩関節・胸腔・腹腔・骨髄を含む）⑤ 単純X線検査（胸部・腹部・KUB・骨格系を中心に）⑥ 心電図検査・ホルター心電図検査・負荷心電図検査⑦ 超音波検査（腹部・表在・心臓）⑧ 生体標本（喀痰・尿・髄分泌液・皮膚等）に対する顕微鏡的診断 ⑨ 呼吸機能検査 ⑩ 消化管内視鏡（上部、下部）⑪ 造影検査（DIP） 【治療手技・小手術】 ・簡単な切開・異物摘出・ドレナージ、止血・縫合法及び閉鎖療法、簡単な脱臼の整復、包帯・副木・ギプス法、局所麻酔（手指のブロック注射を含む）、トリガーポイント注射、関節注射（膝関節・肩関節等）、静脈ルート確保および輸液管理（IVHを含む）、経鼻胃管及び胃瘻カテーテルの挿入と管理、導尿及び尿道留置カテーテル、膀胱瘻カテーテルの留置及び交換、褥瘡に対する被覆治療及びデブリードマン、在宅酸素療法の導入と管理、人工呼吸器の導入と管理、輸血法（血液型・交差適合試験の判定を含む）、各種ブロック注射（仙骨硬膜外ブロック・正中神経ブロック等）、小手術（局所麻酔下での簡単な切開・摘出・止血・縫合法滅菌・消毒法）、包帯・テーピング・副木・ギプス等による固定法、穿刺法（胸腔穿刺・腹腔穿刺・骨髄穿刺等）、鼻出血の一時的止血、耳垢除去、外耳道異物除去、咽喉頭異物の除去（間接喉頭鏡、上部消化管内視鏡などを使用）	指導医・上級医による指導をうけながら、内科疾患全般の診断能力、診断・治療に必要な検査（上部・下部内視鏡検査、腰椎穿刺、骨髄穿刺等）を学ぶことが出来ます。毎朝の内科入院カンファレンスと週2回の内科カンファレンスで情報共有し、困難症例については気軽に相談できます。
経験できる地域医療・診療連携	当院は、津和野共存病院、六日市病院、益田医師会病院、松ヶ丘病院と医療機能連携協定を結んでおり、超高齢社会にむけ、地域間連携を強め、互いに協力しながら地域医療を担っていますので、病診・病病連携など様々な経験ができます。	病院では一般急性期・亜急性期・慢性期医療を学び、併設される介護老人保健施設・居住系サービスで介護現場を体験することで超高齢社会に対応した地域に根ざした医療・介護連携、病診・病病連携なども経験できます。	適切な医療・介護連携を行うために、介護保険制度の仕組みやケアプランに則した各種サービスの実際、更には、介護保険制度における医師の役割および医療・介護連携の重要性を理解して以下の活動を地域で経験する。 1. 介護認定審査に必要な主治医意見書の作成 2. 各種の居宅介護サービス及び施設介護サービスについて、患者・家族に説明し、その適応を判断 3. ケアカンファレンスにおいて、必要な場合には進行役を担い、医師の立場から適切にアドバイスを提供 4. グループホーム、老健施設、特別養護老人ホームなどの施設入居者の日常的な健康管理を実施 5. 施設入居者の急性期の対応と入院適応を判断して実施 地域の医師会や行政と協力し、地域での保健・予防活動に寄与するために、以下の活動を体験する。 1. 特定健康診査の事後指導 2. 特定保健指導への協力 3. 各種がん検診での要精査に対する説明と指導 4. 保育所、幼稚園、小学校、中学校において、健診や教育などの保健活動に協力 5. 産業保健活動に協力	医療経営管理学、医療政策学、医療経営学、医療経済学、医療コミュニケーション学、医療保険学、医療財政学、地域医療に関するセミナー、リーダーシップ理論、マネジメント学、医療経営管理やチーム医療に関するセミナー、VMMC Kaizenセミナー；アメリカ合衆国シアトル（VMMCで用いられている、問題収集のためのバリュー・ストリーム・マップ（VSM）や課題達成型QCとしての3P（Product-Preparation-Process）など多くの改善ツールや理論を体験） 「成人教育コースへの参加」 当院では下記セミナー、コースへの参加およびインストラクター取得を推奨している。 外傷救急への取り組み：JATEC、JPTEC、PTLS、Tac Med ESSNTIALS Basic アシ「ア国際基礎コース 内科的救急への取り組み：ACLS、PALS、FCCS 小児救急への取り組み：PALS、JATEC、PTLS 災害医療：MCLS 慢性期の管理：栄養管理TNT、認知症ケア研修会、緩和ケア教育プログラムPEACE（Palliative care Emphasis program on symptom management and Assessment for Continuous medical Education）	島内の町立診療所、開業医、介護施設等と連携をとり、退院後の患者さんの受け入れ依頼等を経験できます。また、当院医師が町立診療所に出向く際に同行して、診療所の診療も学ぶことができます。

オール島根内科専門医研修プログラム 施設情報一覧

	隠岐広域連立立隠岐島前病院	西ノ島町国民健康保険 浦郷診療所	浜田市国民健康保険 波佐診療所・あさひ診療所・弥栄診療所	国立病院機構宇野野病院	公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院	水戸協同病院	鳥取市立病院
担当者 連絡先	総務係 山根 久美子 TEL 08514-7-8211 FAX 08514-7-8702	担当事務 富谷 恵美 TEL：08514-6-1211 FAX：08514-6-1212	事務担当：弥栄診療所 上原 医療対策課：医療専門監 医師 佐藤 浜田市弥栄町木都賀530-1 ℡0855-48-5001 浜田市殿町1番地 浜田市役所内 ℡0855-22-9310 Mail：Sawada.unh@gmail.com	神経内科、副院長：澤田 秀幸 管理課長：吉崎 宣夫 TEL：075-461-5121 Mail：Sawada.unh@gmail.com	医師診療支援課 平田 Tel：086-422-0210（代表） e-mail：naika_program@chnet.or.jp	tel：029-231-2371 総合診療科 教授 小林 裕幸 mail：hrkoba1@gmail.com 研修担当事務 福家 mail：residency@mitokiyodo-hp.jp	診療局診療部部長 相見 正史 〒680-8501 鳥取県鳥取市市場1丁目1番地 TEL：0857-37-1522 FAX：0857-37-1553 E-Mail：m.aimi@hospital.tottori.tottori.jp
指導 責任者 より 内科 専攻 医へ の メ ッ セ ー ジ	当院は西ノ島、中ノ島、知夫利島の3島からなる島前地区で唯一の入院病床を持つ、島前地区の基幹病院として約6000人、高齢化率45%以上の方々を対象として診療を行っています。本土まで高速船で2時間、フェリーで3時間という物理的な距離があるため、できる限りの医療を島内で完結できる様に必要な検査機器、診療技術、知識をそろえて対応をしています。 対象となる患者は0歳から100歳まで、対象としている疾患はは内科、外科にとらわれず、耳鼻科や眼科、皮膚科も含め、受診した患者の全てに対応しています。 当院での研修は地域医療、総合診療の最先端を学ぶ事が出来ると自負しております。総合診療の「診」は診断、「療」は治療です。診断から治療、さらにはその経過followまで。小児から高齢者まで、外来、入院問わず全てを主治医として関わり、コメディカルと協働して本当の意味でのチーム医療を展開できる能力を養う事ができます。離島の小さな病院なので、MRIやPET-CTといった高価な機械はありませんが、超音波診療にとても力を入れており、エコー診療の知識や技術を学ぶ事もできます。 当院は毎年100人以上の研修医、医学生、看護学生、リハ学生、薬学部学生、高校生の見学や実習を受け入れています。島根県の僻地である隠岐島前という離島にこれだけたくさんの実習生が来られるのはそれだけ学べることが多くなるからだと思います。是非一度当院での研修も検討してみてください。	当診療所は外来診療のみですが島内に3か所ある病院・診療所のうちの1か所として地域医療を行っています。 内科疾患以外にも整形外科、皮膚科、泌尿器科、診療科目は内科の1種類のみですが、あらゆる症状の患者さんを日々診察しております。 対象となる患者は0歳から100歳まで、対象としている疾患はは内科、外科にとらわれず、耳鼻科や眼科、皮膚科も含め、受診した患者の全てに対応しています。 当院での研修は地域医療、総合診療の最先端を学ぶ事が出来ると自負しております。総合診療の「診」は診断、「療」は治療です。診断から治療、さらにはその経過followまで。小児から高齢者まで、外来、入院問わず全てを主治医として関わり、コメディカルと協働して本当の意味でのチーム医療を展開できる能力を養う事ができます。離島の小さな病院なので、MRIやPET-CTといった高価な機械はありませんが、超音波診療にとても力を入れており、エコー診療の知識や技術を学ぶ事もできます。 当院は毎年100人以上の研修医、医学生、看護学生、リハ学生、薬学部学生、高校生の見学や実習を受け入れています。島根県の僻地である隠岐島前という離島にこれだけたくさんの実習生が来られるのはそれだけ学べることが多くなるからだと思います。是非一度当院での研修も検討してみてください。	各診療所で地域の健康問題を全て扱うことができます。 内科疾患以外にも整形外科、皮膚科、泌尿器科、精神科の疾患なども多く扱います。また、多職種との連携もあります。診療所以外の場もあります。そして、地域全体をケアするコミュニティーとして診る視点も求められます。 1次医療機関として、プライマリ・ケアをしっかり学ぶことができます。その経験は内科医になっても役立つでしょう。皆さんの研修をお待ちしています。	当院は、神経内科、免疫膠原病科において高い診療実績を有する国立病院です。神経内科領域においては、全般にわたり、多数の診療実績があります。治療面においても、パーキンソン病に対する先進的治療（経腸的レボドパ持続注入療法、DBS、レボドパ血中濃度モニタリングによる薬剤調整など）、視神経髄膜炎に対する先進的治療（モノクローナル抗体による治療）などを行っております。神経内科の病床数は160床、年間入院件数は1,000件であり、比較的短時間で多彩な症例を経験可能です。免疫膠原病領域では、関節リウマチをはじめとして多彩な症例の経験が可能です。臨床研究活動も活発で、これまでに当院が中核施設となって2編の医師主導治療を実施（1件はパーキンソン病に対するもの、1件は視神経髄膜炎に対するもの）しています。これまでの臨床研究の成果は、我が国の治療ガイドラインにエビデンスと引用されており、こうした臨床研究にも関わること、次世代をなす若手医師を育成していきたいと考えています。当院に在籍されたレジデントの出身大学は北海道大学、旭川医科大学、弘前大学、日本医科大学、東海大学、名古屋大学、京都大学、京都府立医科大学、関西医科大学、大阪医科大学、大阪市立大学、岡山大学、福岡大学など全国各地の国公立大学に及んでいますが、特に島根大学からは毎年研修に来られています。	倉敷中央病院は、岡山県南西部の医療の中核として機能しており、地域の救急医療を支えながら、又高機能な医療も同時に任っている急性期基幹病院です。 内科の分野でも入院患者の25%は救命救急センターからの入院であり、又内科領域13分野には多くの専門医がhigh volume centerとして高度の医療を行っています。 内科専門医制度の発足にあたり、連携病院並びに特別連携病院両者との連携による、地域密着型医療研修を通して人材の育成を行いつつ、地域医療の充実に向けての様々な活動を行います。 初診を含む外来診療を通して病院での総合内科診療の実践を行います。又内科系救急医療の修練を行うと同時に、総合内科的視点をもったサブスペシャリストの育成が大切と考えカリキュラムの編成を行います。 加えて、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスを提供しながら、医学の進歩に貢献できる医師を育成することを目的とします。	内科の垣根なく、全ての内科患者を主担当医として、外来、入院（初診・入院～退院、通院）まで継続的に診断治療し、一人一人の患者の全身状態、社会的背景、療養環境に配慮して包括的に管理する全国でも唯一の体制をとって、教育研修を行っています。 全国から研修医が集まり、切磋琢磨して研修に励んでいます。2018年度新専攻医8名研修中で、他連携施設として、筑波大学より半年から1年単位で5名研修を受け入れています。忙しいですが、体力、気力、コミュニケーション能力があれば、必ず本物のジェネラルな力がつきます。	当院は、救急医療告示病院、地域がん診療連携拠点病院、地域医療支援病院、在宅療養後方支援病院、へき地医療拠点病院、これら5つの指定を受けている県内唯一の病院です。 内科の特徴としては各領域の専門医が少ない現状ではありますが、消化器領域においては日本消化器内視鏡学会、日本消化器病学会の認定施設となっており、専門医による熱い指導を売りにしています。特に内視鏡部門では、2017年度実績で上部内視鏡約5,500件、下部内視鏡約1,300件、ERCP約140件、ESD約70件とこの規模の病院としては症例数が多いという自負がありますし、医師一人当たりの経験できる症例数が非常に多いというメリットがあります。また、総合診療科が充実しており、generalistの育成にも力をいれており、各領域の様々な疾患を経験できる体制になっています。さらに、各診療科同士の垣根が低く、すぐに相談しやすい環境となっているのも当院の魅力の一つです。 特に subspeciality として将来消化器領域を目指される専攻医の皆さん、当院で密度の濃い研修をしてみませんか！
経験 できる 疾患 群	いわゆる一般的にcommon diseaseと呼ばれる疾患は幅広く経験可能です。また、自分自身で診断し、治療を選択して、経過を見るという外来診療を常勤医の指導のもと経験することが可能です。 高齢化率の非常に高い地域であるため、高齢者疾患を経験することが出来ます。	研修手帳に記載されている症例をすべてではありませんが、広く経験することができます。	1次医療機関であるため、13領域70疾患のうち、頻度の高いものを中心に経験できると考えられます。比較的まれな疾患の初診も経験することもあります。	神経内科：パーキンソン病、進行性核上性麻痺、多系統萎縮症、小脳変性症、皮質基底核変性症、多発性硬化症、視神経髄膜炎、重症筋無力症（MusK陽性、LRP4陽性を含む）、CIDP、MMN、筋萎縮性側索硬化症、筋ジストロフィー、認知症(Alzheimer, Lewy小体型、FTD、内科疾患に伴う)など 免疫膠原病科：関節リウマチ、シェグレン症候群、間質性肺炎、血管炎など。	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を経験することができます。	1年研修すれば、研修手帳に定められた70疾患群のほぼ全てを経験でき、200症例以上を経験することができます。	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳に記載のある領域の疾患群については、概ね経験できます。
経験 できる 技術・ 技能	診断から治療、経過followを行うという外来診療、入院管理、さらには退院調整、在宅診療、施設嘱託業務などありとあらゆる診療の技術、技能を経験可能です。 超音波診療に力を入れているため、心臓、腹部、頸動脈に留まらず、運動器、皮膚・感覚器、産婦人科、新生児などの超音波診療技術、技能の経験が出来ます。	技術・技能評価手帳にある必要な技術・技能を実際に経験して身につけることができます。	院内には、レントゲン撮影、顕微鏡（KOHなど）、上部消化管内視鏡、超音波検査などの器具があります。それらを使った検査は習得可能です。 診療は外来診療を中心に行います。外来診療を総合診療医によりきめ細かく指導することができます。専攻医の技能と希望に合わせてですが、はじめはスーパーバイズを受けながら、そののちは独立して外来診療を行ってもらいます。 1日の終わりには、診察した患者の全例のレビューを行います。 患者層は、地域の0歳から100歳までの幅広い患者です。診療内容も内科疾患に限らないプライマリ・ケアの診療をしてもらいます。	神経内科：神経学的所見の習得、MRI画像の読み方、脳血流シンチグラム、脳波、神経伝導検査、針筋電図、誘発筋電図、睡眠モニター、終夜脳波、NPPVの適応・設定、筋生検など 免疫膠原病科：生物学的製剤の適応、適切な使用、関節等のMRI撮影など。	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。	初診からの臨床推論（医療面接、身体診察、問題志向型診療録、プレゼンテーション） 救急初療全般 文献検索能力 EBM 問題解決能力 医学教育 学会発表 他各科診療技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例にもとづきながら幅広く経験することができます。 特に、消化器内視鏡領域では、内視鏡専門医によるマンツーマン体制でスクリーニングの上下部内視鏡をはじめとして、各々のレベルに応じてある程度内視鏡治療までの経験が可能です。
経験 できる 地域 医療・ 診療 連携	いわゆる地域医療としてイメージされるありとあらゆるものは経験出来ます。さらに院内外にMSWがいるわけではないので、退院調整、退院後の生活調整なども自分でしなければなりません。近隣の診療所とはWEB型電子カルテで常に情報を共有していますので、連携は非常にスムーズです。また施設も島内に限られた数しかなく、当院の医師がそれぞれの嘱託医も勤めており、カルテも共有しているため、施設との連携もスムーズです。 ケアマネやヘルパーも事業所が限られているため、すぐに顔の分かる関係を作る事ができ、非常にシームレスな地域医療、診療連携を経験することができます。	入院が必要な患者の紹介、退院後の転院に係る調整等	プライマリ・ケアでは、90%を超える健康問題への解決ができるといわれています。紹介が必要な患者については浜田市唯一の急性期疾患の入院治療ができる医療機関の浜田医療センターに紹介し、診療を行います。 救急車での搬送なども頻度は少ないですがあります。	当院では、訪問看護ステーションを開設しており、在宅診療等についても希望者は経験可能です。	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。	系列の高萩協同病院と連携して、医師不足地域の支援をしています。	平成25年10月より、がん・非がんを問わず高齢者全般を対象とした地域ケア病棟の運用を開始しました。さらには、在宅医療、地域医療連携等に力を入れるため在宅療養後方支援病院（平成27年6月）、地域医療支援病院（平成27年8月）を取得し、平成28年11月から地域包括ケア病棟を開設しました。 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。